

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議

第5回 議事次第

令和6年1月17日（水）

10時00分～

福岡市役所11階 教育委員会会議室

[議題]

- 報告書（案）について

[資料]

資料1： これまでの検討経緯・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1

資料2： 専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議

報告書構成（案）・・・・・・・・ p.2

これまでの開催経緯

1 開催経緯について

第1回会議 令和5年8月24日（木）

- 有識者会議の運営について
- 高等学校を取り巻く環境の変化について
- 市立高等学校の現状等について

第2回会議 令和5年10月16日（月）

- 今後の方向性について

第3回会議 令和5年10月30日（月）

- 福岡女子高校、博多工業高校の今後のあり方について

第4回会議 令和5年11月6日（月）

- 博多工業高校の今後のあり方について

2 第3回、第4回会議の議事要旨

別添議事要旨参照

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議 報告書構成（案）

I 章 高等学校を取り巻く環境の変化

1 高等学校の状況

- (1) 全国の状況
- (2) 福岡県の状況
- (3) 福岡地区・市の生徒数の状況
- (4) 委員意見

2 社会経済状況の変化と今後の高等学校教育のあり方

- (1) 新しい時代の高校学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）
- (2) 経済産業省公表資料「未来人材ビジョン」における将来の労働需要の推計
- (3) 中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』
- (4) 委員意見

(3) 学校運営

(4) 各学校について

- ① 福岡女子高校 ③ 福翔高校
- ② 博多工業高校 ④ 福岡西陵高校

III 章 福岡女子高校の今後のあり方

1 確認事項

2 他都市の事例

- (1) 共学化の状況
 - ① 国内の高等学校の動向
 - ② 共学化の理由等
- (2) 学科改編の状況

3 委員意見

- (1) 共学化
- (2) 学科改編
- (3) 新しい学び
- (4) 既存の学びの見直しの視点
- (5) 大学進学への対応

II 章 福岡市立高校の現状と課題

1 福岡市立4校の志願倍率の推移

2 専門学科を有する市立高校の現状等

- (1) 福岡女子高校
 - ① 学校の概要、近年の学科改編の状況 ③ 特色ある取組み
 - ② 卒業後の進路（令和4年度の状況）
- (2) 博多工業高校
 - ① 学校の概要、近年の学科改編の状況 ③ 特色ある取組み
 - ② 卒業後の進路（令和4年度の状況）

3 普通科、総合学科の市立高校の現状等

- (1) 福翔高校
 - ① 学校の概要等
 - ② 特色ある取組み
- (2) 福岡西陵高校
 - ① 学校の概要等
 - ② 特色ある取組み

4 生徒のニーズ

- (1) 福岡女子高校
- (2) 博多工業高校

5 委員意見

- (1) 市の施策との連携
- (2) 学びの内容

IV 章 博多工業高校の今後のあり方

1 確認事項

2 他都市の事例

- (1) 学科改編
- (2) 社会に開かれた教育課程の事例
- (3) 3年間に限らない教育課程
 - ① 専攻科
 - ② 高等専門学校

3 委員意見

- (1) 学科改編
- (2) 新しい学び
- (3) 既存の学びの見直しの視点
- (4) 大学進学への対応
- (5) 3年間に限らない教育課程
 - ① 専攻科
 - ② 高等専門学校

第3回会議の議事要旨

1 福岡女子高校

(共学化)

- 男女共同参画社会、ジェンダー平等などの社会の流れの中で、共学化は必要。なお、共学化にあたっては、別学教育の良さへの考慮が必要。

- 女子高校での教育で「女子のリーダーシップ」という話があったが、共学の中で女子がリーダーシップを取れないということがあれば、そちらのほうが課題。

- 共学化する際には、これまで培ってきた女子高校での教育のノウハウをしっかりと発揮できる学校づくりが必要。

- 福岡女子高校の設立の趣旨・目的に「家庭科」があると思うが、いまではズレが生じていると思う。女子高校のままでいくとしても、この目的、ビジョンを変える必要がある。

- 共学の学校でも、女子が生徒会長や運動会のブロック長を担うことは珍しいことではない。福岡女子高が培ってきたノウハウは共学の中でも生かすことができる。

- 共学になっても、「多様性へのケア」は大切な視点。

- 「男らしさ」が求められるなど、男性が生きづらくなっているという声もある。性別による固定的役割が求められない、「新しい」学校づくりが求められるのではないか。

(学科改編)

- 普通科と専門学科を置いているが、それぞれの学科で進路先が非常に多岐にわたる。進路が多岐にわたることは魅力であり、生徒の進路選択に対応できる幅広い柔軟な学科構成が必要ではないか。
- 学科制には、生徒の人間関係の固定化というデメリットがある。
- 中学生がどの程度、自分の進路を見通して学科を選択できるのか疑問もある。生徒の興味関心で、入学後に学びを選択できるような学科改編が必要となる。
- 1年次では共通カリキュラムを学び、2年次で専門学科、普通科を選択するような仕組みがあってもいいのではないか。
- 家庭科という枠組みの中に、ファイナンスや法律など経営的な視点や地球環境への配慮、クリーンや衛生のような工学的な視点を取り入れるなど、多様な学びを提供することが必要ではないか。
- 学科改編にあたってに大切なのは「出口」。「出口」に魅力がないと、生徒は集まらない。「この学校でないと、〇〇になれない」、このような魅力のある学校が望まれる。
- 既存の学科でいうと、食物とビジネス、国際と観光が掛け合わされた学びは、これからも求められる人材育成につながると思う。
- どのような人材を育成するのか定めて、そのために必要な学びを設計していく。生徒たちは、1年次は必要な素養を身につけ、学びの中で自分の興味関心に応じてフレキシブルに選択できるような仕組みがあるとよいのではないか。

- 「クリーン」「スマート」「Well-Being」などの価値観は市の施策とも親和性が高い。そのようなビジョンを大枠として固めて、そこから学び・科目に落とし込んでいく。新しい挑戦ができる学校づくりだと考えている。

- 「生活情報科」の概要の説明で、情報、マナー、食生活が横並びで記載されており、何をどこまで学ぶことができるのか判然としない。学科の学びの内容も精査していく必要があるのではないか。

- グローバル標準や時代に合った学科・学びにアップデートしていく必要がある。

- 学科によって志願倍率に差がある。子どもの数が減っている中で、定員も検討する余地があるのではないか。

- 家庭科で培われる技術を持った人材は、国際的な視点で見ると、技術移転の人材として重宝される。グローバルな視点やマインドを学ぶことで、国際的な舞台でも活躍できるようになるのではないか。

2 博多工業高校

(学科改編)

- 他都市の事例のように、括って募集するというのはいい考えだと思う。学びの分野が多岐にわたるなかで、一部の学びは、専攻科も含めて5年間で学ぶ仕組みにすることも一つの手法として考えられる。

- 福岡市にとってどのような人材が育ってほしいか、また、国際的にみてどのような技術が必要とされているかを踏まえて、あまり細分化せず、幅広く学ぶことのできる学科構成が望ましいと思う。

- カリキュラムを検討する際には、卒業後の就職先も踏まえたうえでの検討が必要ではないか。地域や市内・都市圏の事業者が求める人材、つまり「出口」とのずれが生じないよう検討する必要がある。

- 例えば、自動車のEV化のところで、部品の設計や製造に関する仕事が減っていくという未来も見えてきている。

- インターネットやウェブの下の階層、ファームウェアなどの技術者は、日本全体を見ても不足している。この点に強みを持つ学科は特色になる。

- インテリア、建築、自動車などのいまある学科でも、これからは情報技術にも長けていないと立ち行かなくなる。その意味でも、1年次は、総合的に工業の基礎を学ぶことができる学科構成が望ましいのではないか。

- 15歳での進路選択における分かりやすさと、エンジニア育成という工業高校の根幹をいかに両立するか、学科改編のコアになる部分だと思う。

○第1次産業でも、「スマート農業」が求められる中で、技術者が不足しているという話を聞く。求める人材像を検討する際には、第1次産業に目を向けることもあっていいのではないか。

○英語が堪能なエンジニアは世界的にも求められている。このような人材を育成することは可能性があると考えられる。

○工業高校においても、日本語、英語にかかわらず、読解力の強化が必要だと思う。

第4回会議の議事要旨

1 博多工業高校

(学科改編)

- 全国的には専門高校の約3割の生徒が進学を希望しており、今後も大学受験の傾向は続く。生徒たちの多様な学びに対応する仕組みづくりが必要である。

- 進学の観点で、総合型選抜入試への受験ができるよう、プロジェクトベースで、プログラミングやアプリケーション、AIを活用するような学科構成が望ましい。工業高校の特性を活かしながら、受験にも強い学科再編をするのがいいのではないか。

- これからの社会の変化にも柔軟に対応できるよう、学科構成にフレキシビリティを持たせることも必要ではないか。

- 学科の設計にあたっては、基礎的な技術を教えるだけでなく、その基礎的な技術がどのように応用され、社会に使われているかまで生徒に伝わる必要がある。

- いまの高校生に需要があるからといって、これからも同じ教育をしていいのか。高校生は卒業するときに成人する。いかに自覚をもって学ぶことができるかという視点で、学びを設計する必要があるのではないか。

- 生徒の興味関心をテクノロジーで実現できる、そのようなサポートや学びが提供できるのは工業高校の特色でもあり、新しいイノベーションが起こるきっかけとなる。

- 全国的な傾向として、3年以内の離職率は5割くらい。離職・転職があることを前提に、高校3年間でも、生活を営むことができるスキルを身につける必要がある。

- いまの求人が今後も続くとは限らない。テクノロジーの飛躍的な変化がある中で、今後も社会から求められる人材像も見通したうえで、学科構成の検討が必要。
- キャリア教育として、単に技術を習得するだけでなく、メンタリティやレジリエンス（精神回復力）も意識できるような学びが必要となる。
- 技術は日々進歩している。教育委員会にも、最先端のカリキュラムを学ぶことができる環境を整えていくことが求められる。
- 高校、高等専門学校、大学とある中で、高校はエントリーの部分。基礎力を養うことで、今後の応用力にもつながっていく。
- 学んだテクノロジーをビジネスに活かすという視点で、工業高校から文系大学に進学できるようなカリキュラム構成も検討していただきたい。
- 中学生の進路希望を見ていると、卒業後の「出口」がイメージしやすく、専門性が感じられる学科を選択する傾向にあると感じられる。
- 中学生の中には、家庭の事情もあって、高校で資格を取って社会に出ていくという選択をする、その中で、専門学科を選択しているという事情もある。ただし、入学後に、もっと学びたいと思ったときに、サポートができることが大切だと思う。
- キャリア教育を重視して、1年次に複数担任制をとっている学校があるが、中学生や保護者にとって、学校選択の際の大きな材料になると思う。
- 工業高校は、学科選択を「失敗」できる学校ともいえる。一度学んでみて、合わなけれ

ば、普通科やほかの分野の専門の大学等へ進学もできるという意味で、多様な進路選択が可能となる。

○高校でも学科横断的に学ぶことができる、柔軟な運用が求められる。

○工業高校の場合は、経済観光文化局などの市の施策との連携が必要。市の施策に合わせて、工業高校でこういう人材を育成、専攻科ではこういう人材、高等専門学校ではこういう人材、という議論が必要ではないか。

(専攻科・高等専門学校 全般)

- 何を学ぶかも大事だが、生徒たちの進路、次の「入口」、良い「入口」なのか、その先につながっているのか検討が必要。

- 他都市とは産業構造が異なる。他都市の事例をそのまま適用すればいいというものではなく、市として支えるべき産業は何か、どのような技術者や人材を育成するのかという検討が必要。

- 例えば、A I などについて人手不足は顕著で今後も伸びていきそう。ここにアプローチするにあたって、どのような人材が必要で、そのためには専攻科がいいのか、高等専門学校がいいのか、そのような議論が必要ではないか。

- 卒業生が活躍するという観点だけでなく、スタートアップの創出・誘致、アト施策など市の施策とも連動して、どのような人材を育成するか、そのためにどのような形態が望ましいか、検討すべき。

- 将来的な高等専門学校設立を見据えながら、いまあるリソースの活用等を踏まえると、専攻科という現実的な落としどころもありうるのではないか。

- 現在の潮流に合わせた技術者、I T系の技術者を育成することは非常に有為。

- 今後、人口減少する中で、サービス維持のため自動化が進む。福岡市は商業都市で、情報通信系の業務で相応の技術者が必要になると予測される。

(専攻科)

- 工業高校の役割として、社会の潮流に適応した創造力のある技能・技術者の育成ということで、産業界を支えている。いまの生徒の約6割が就職を希望しているニーズも踏まえ、3年間で卒業・就職できる学びと、専攻科2年を加えた計5年間で学ぶ学科・コースの設定が求められる。

- データサイエンス、AIなどの分野は数学力が必要であり、3年間の学びでは不十分な面が否めない。専攻科でさらに2年間学ぶことには大きな意味があると思う。

- 高度なデータサイエンスやAIなどの分野における人材育成を高校や専攻科でできないことはないと思うが、いまある高校の枠組みで学科をどう運営するか、高校の教員が教えられるのか、課題がある。

- 高校3年間に単純に専攻科2年間に足すのではなく、入学当初から5年間を見据えた学科・コースをデザインすれば、全国にも発信できる魅力・特色になるのではないか。

- 基礎的な機械、電気、建築などの分野では、3年間の学びで、技術を身につけたいい人材を輩出できている。

- 愛知県の事例のように民営であれば、大学等からしかるべき教員が派遣されるし、質の高い教育が担保されるのではないか。

(高等専門学校)

- いまの時代に合わせた技術を高校3年間で学ぶことができるかという点、かなり難しい状況にあるのではないかと。より高次の教育を行える高等専門学校が福岡市に必要ではないか。
- 福岡県内には工業科のある高校は十分に揃っている印象がある。その意味でも、高等専門学校が必要ではないか。
- 高等専門学校を検討するにあたっては、現在通学している生徒の状況や地域特性も考慮する必要があると思う。
- 高等専門学校で学んだ人材が求められていることに疑いの余地はない。一方で、そのような人材は全国的にも求められていて、市内からエンジニア人材が流出していくのではないかと。
- 工業高校に高等専門学校を併設して、いまあるリソースを最大限活用してコストを下げながら運営していくことも検討できるのではないかと。
- 工業高校と高等専門学校では入学してくる生徒が異なると思う。これまで博多工業高校で学んでいたような生徒は遠くの工業高校に行かざるを得なくなる。これまで工業高校で培ったものを入れ替えてしまうことにもなり、慎重な検討が必要ではないかと。
- 福岡市は人口が160万人を超えており、1校くらい高等専門学校があってもいいとは思いますが、県内にはすでに3校の高等専門学校がある。他県の状況を踏まえると、バランス的には3校でちょうどいいのかなと感じる。

2 福岡女子高校

(学科改編)

- 福岡女子高校で生徒や教員が求めている大きなテーマとして「自立」と「進学」があると感じた。
- 総合型選抜入試に対応できるよう、デザイン、保育、調理などのコンテンツを活かしたPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を取り入れた学習が必要ではないか。
- 「稼ぐ」能力を育成するようなカリキュラムが必要ではないか。デザイン力はあらゆる分野に必要で、服飾デザイン科は洋服のデザインだけでなく、空間デザイン、UI・UXのデザインを押し出すことが考えられる。生活情報科は、汎用的にたくさんの資格を取得するのではなく、「尖り」も必要。
- 保育科は資格取得ができない。入学後にほかの学びを選択できないことが可能性を狭めてしまうのではないか。
- 国際教養科は、いい授業をしているが、希望者が少ないという課題があるため、募集人数を減らして、リソースを他の学科にも活用しながら継続していくのがいいのではないか。
- 食物調理科は調理師免許が取得できるという特色がある。例えば、寿司のようなコンテンツを入れて、グローバルに稼ぐことができるという視点での検討があってもいいのではないか。
- 学科改編にあたって、デザインというものをベースにして、カリキュラムを設計していくのもいいのではないか。

○保育を教育という概念で括り直すと、教育法規などの学習にもつながるし、出口も見えやすくなるのではないか。

○博多工業高校とオンラインでつなぎ授業をすることで、福祉と工学が融合した学びが生まれるし、リソースの有効活用にもつながる。